

乾側をよくする会

1 基本データ

○地区名 乾側地区

○地区人口 978人

(平成26年6月30日現在)

○面積 10.51km²

○地区の沿革

乾側地区は、市街地の西部に位置し、地区西端にある花山峠を境に福井市に接し、地区中央の東西を国道158号線が横断しており、大野市の西の玄関口となっている。

8地区からなり戸数約230戸で、酒米と種粳産地として有名な純農村地域である。

○実施主体

乾側をよくする会

2 現状と課題

乾側地区は縄文時代から人々が住み始め、大野でも最初に開けた場所のひとつである。弥生時代や古墳時代には牛ヶ原を中心に大きな力を持った豪族が現れ、乾側地区内に多くの墓や古墳が作られた。中でも牛ヶ原の山ヶ鼻古墳群には奥越で唯一の前方後円墳があり、鉄剣や貨幣(和同開珎)も見つかっている。なお、大野盆地内の古墳のうち6割以上が乾側地区に集中している。

また、稲作が始まり、奈良時代には寺や貴族・豪族の土地である荘園が発達したが、牛ヶ原の荘園は、奈良時代には奈良東大寺領、平安時代には京都醍醐寺領として、今の大野市街地の北半分にまで広がっていた。その牛ヶ原荘には後に牛ヶ原城が築かれ、三社神社が建立された。なお、尾永見区には、稲作に縁の深い雨乞い踊りが無形民俗文化財として継承されている。

さらに、南北朝時代に築かれた戌山城は、金森長近によって越前大野城が築かれるまで、戦国時代の激動期を含め200年余りの間、大野

とその周辺地域を治める斯波氏、朝倉氏の居城として、県内2番目の多さの畝堀数と奥越最大の規模を誇る山城であり、一乗谷城の東方面の軍事拠点として重要な役割を果たしていた。

このように、乾側地区は古来、大野盆地の中でも最も歴史と伝統のある地域であり、その価値と魅力を高めるために、平成22年度から3ヵ年をかけて「みくら清水・戌山城址」及び「牛ヶ原城址・三社神社」の2コースの登山道整備を、平成25年度においては、城址登山道の案内看板及び主郭付近への木製ベンチの設置を行うなど、史跡整備に取り組んできた。

地区の魅力を発信するためには、さらに、地域資源の掘り起こし、そして、登山道整備後の来客者増加のための方策や伝統の継承を、いかに継続発展させていくかが課題である。

3 事業の内容

(1) 普及啓発・伝承事業

①牛ヶ原城址・三社神社史跡巡り

日時 平成26年10月18日(土)

午前9時～正午

参加者 約40人

平成22年度から整備してきた戌山城址・牛ヶ原城址の登山道整備が平成24年度に完了したことを受けて、平成25年度は戌山城址史跡巡りを、本年度は牛ヶ原城址・三社神社の史跡巡りを地区住民を始め市内全域を対象に企画した。

参加者は最初、史跡巡りの前に市の学芸員による予備知識講座を公民館で受講。その後、牛ヶ原城址・三社神社へ向けて出発。初めに三社神社の参道口から三社神社まで登り(約500mのコースを約30分間)、その後、牛ヶ原城址の主郭跡(約700mの下りコースを約15分間)に移動した。途中、学芸員から地域の神社史や山城についての説明を受けながら散策した。



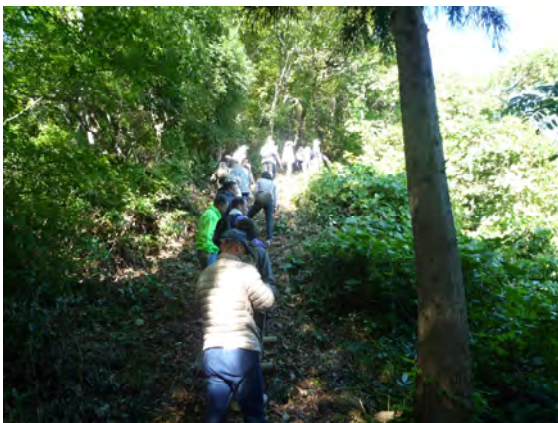
学芸員による予備知識講座



牛ヶ原城址の主郭で説明を受ける参加者



参道口で説明を受ける参加者



登山道を登る参加者

②戌山城歴史講演会

日時 平成26年12月6日(土)

午後6時～午後8時 乾側公民館

参加者 約20人

戌山城については、天空の城越前大野城が見える場所として近年注目を集めているが、そもそも戌山城は今から約640年前に建てられ、その跡には今なお多くの遺構が確認でき、山城好きの歴史ファンにとっては、大変魅力ある史跡である。

市の学芸員を講師に迎え、遺構の紹介とともに、戌山城主と「応仁の乱」の関係について、平成25年度に発刊した「乾側歴史ものがたり」を交えながら説明を受けた。

戌山城の歴史について一層理解を深めるとともに、地区内外にその魅力を伝承・発信する講演会となった。



学芸員による講演会

(2) 登山道・史跡整備事業

① 乾側史跡総合案内看板の設置

平成22年度から25年度にかけて、史跡の整備を行ってきたが、本年度は、これまで整備してきた乾側地区の史跡を、乾側を訪れた来訪者に分かりやすく見て貰い、現地の史跡に足を運んでもらえるよう、乾側史跡総合案内看板をJR牛ヶ原駅前に設置した。

制作にあたり編集委員会を設置し、看板に記載する史跡内容等を検討するなど、その作成に取り組んだ。



編集委員会の様子



イベント会場移動展示用看板(小型)



乾側公民館の常設用看板(小型)



乾側史跡総合案内看板(大型)

JR牛ヶ原駅前に設置

② 史跡由来看板の設置(坂戸区)

目的 史跡の説明看板を設置することにより史跡についての理解を深めるとともに、史跡の保存・継承を促進する。

内容 坂門一言神社由来看板の設置 1基
坂門一言神社跡の標柱の設置 2箇所



坂門一言神社の由来看板



坂門一言神社跡地の標柱 2箇所（上・下）



飯降山登山道方面



上丁登り口方面

③ 戌山城址登山道分岐標柱の設置

平成25年度に戌山城址登山道の上丁登り口に案内看板を設置。上丁登り口から観光客が登山した時に途中にある分岐点（戌山城址方面・飯降山方面・上丁方面）で、行き先が分かるように標柱を設置（3本）。



戌山城址方面

4 事業の成果

本年度は、これまで取り組んできた事業をいかに継続発展させるかを目的として事業展開を実施した。

まず、普及啓発・伝承事業として、「牛ヶ原城址・三社神社史跡巡り」及び「戌山城歴史講演会」を開催した。地区の住民や児童の他に地区外住民の参加もあり、ふるさと意識の向上と地域の魅力を発信できた。また、市学芸員による史跡等の説明・講演により、一層史跡に対する理解を深めることができた。

次に、登山道・史跡整備事業については、「乾側史跡総合案内看板」及び「坂門一言神社の史跡由来看板」を制作・設置並びに「戌山城址登山道分岐標柱」を設置した。

乾側史跡総合案内看板の制作については、編集委員会を立ち上げ、乾側各地区から史跡情報

を収集し、集められた史跡情報を一つひとつ入念に検討するなどの編集に取り組んだ。

これら一連の事業への取り組みを通じて、地域内に貴重な文化財が存在することを再認識し、地域への愛着や誇り、ふるさと意識が高揚され、地域の史跡を継承していくことを通じて、自らの手で地域をさらによくしていこうとする地域づくり活動の活性化に繋がったと考えられる。

5 今後の展望

本年度は、史跡の総合案内看板や由来看板などを設置したので、来年度においては、更に来訪者に対して史跡を分かりやすく案内できるよう、案内看板に載せた各史跡をスマートフォンなどのWEB上ですぐに検索できるようにホームページを立ち上げるとともに、併せて史跡紹介パンフレットを作製したい。

また、案内看板に載せた各史跡を巡り歩く「乾側史跡巡りウォーキング」を企画し、地区内外からの参加を募るとともに、地区小学校とも連携を図り、ふるさと意識の向上及び地域の魅力の再確認並びに地域の魅力を一層送信できるように取り組んでいきたい。

今後とも、乾側地区に残る史跡等の地域資源の掘り起しを図るとともに、史跡・文化財を活用しての来訪者増加のための方策に知恵を出し、地域の魅力を積極的に発信していきたい。

なお、平成22年度の本事業において、ふるさと芸能「雨乞い踊り」に必要な太鼓・笛・法被などの備品を整備しており、「地区敬老会」や「結の故郷・小学生ふるさと芸能発表会」などの機会を通じて文化・芸能の子どもたちへの伝承活動を推進することにより、地域における大人と子どもの交流を深めるとともに、伝統文化・伝承芸能の次世代への継承を促進し、ひいては「結の故郷」づくりに繋げていきたい。